

○横須賀市長 上地 克明

皆さん、新年あけましておめでとうございます。

横須賀市長の上地克明です。

穏やかに新年を迎えられたことと拝察し、まずはお喜び申し上げます。

挨拶に先立ちまして、一言、お伝えしたいことがございます。それはこの年末年始の間、昼夜問わず、医療体制の維持に最前線でご尽力いただいたすべての方々に対し、心からの御礼を申し上げます。

こうして私たちが穏やかな新年を迎えることができたのは、医療・保健・福祉関係に従事される皆様の、筆舌に尽くし難いご尽力があったからでこそと考えます。改めまして市を代表し、衷心より感謝を申し上げます次第です。

本当にありがとうございました。

さて、昨年を振り返りますと、世界がコロナで明け、コロナに暮れた一年でした。このような年になるとはだれが想像できたでしょうか。

未知のウイルスによって、初めてオリンピックが延期になり、わが国でも戦後七十五年にして、初の緊急事態宣言が発出されました。何もかもが手探り状態の日々ではありましたが、医師会をはじめ数多くの関係機関のご理解とご協力のもと、可能な限りの医療体制を築いてくることができました。

現時点でも、先行きがなかなか見通せない状況が続いておりますが、すでに国内でもワクチンの治験が始まっています。ワクチンが接種可能となった暁には、可能な限り早く、そして安全かつ確実に接種していただけるよう、横須賀市では万全の準備を進めているところです。一日も早くこのコロナ禍を克服し、日常を取り戻すことができるよう、引き続き全力を尽くしてまいり所存でありますので、今後とも変わらぬお力添えを、何卒、よろしく願いいたします。

明るい話題が少なかった昨年ですが、年末にうれしい出来事がありました。

住友重機械工業株式会社さんより、浦賀レンガドックを含めその周辺部分をご寄附いただけることになりました。言うまでもなく浦賀ドックは、日本はもとより、世界の経済発展に大きく貢献してきたものです。特にレンガドックは単に歴史遺産ではなく、往時の姿そのままに、現在でも本物の迫力、魅力で見入る者を圧倒します。

今後の活用方法はこれからの検討となりますが、この貴重な財産を、海洋都市横須賀の象徴として、市民が愛し、全国に誇れるような施設としていきたいと考

えています。

また、4月には、横須賀製鉄所の副首長であったティボディエの官舎をイメージ復元した、よこすか近代遺産ミュージアム ティボディエ邸が完成する予定です。

昨年思うように果たせなかった横須賀市のプロモーション活動を再開させ、この施設をルートミュージアムの核として最大限活用し、横須賀を訪れる多くの方々に、その魅力を存分に味わっていただきたいと思っています。

このような明るい兆しが見え始めた中、私は今年の言葉に「希望」と「和合」を選びました。

昨年は、コロナで先行きが不透明な中、言いつくせぬ不安と分断に、世界中が覆われていました。

感染症は、いつの時代も人類の脅威でありましたが、幾度となくそれを克服してきました。きっと今年はこのコロナを見事に克服し、希望をもって、また新しい輝く未来へと、人類は歩みを進めることができるはずです。

そして「和合」とは、共に分け隔てなく親しみ合うことを意味します。人は一人では生きていくことができません。会いたくても会えないコロナ禍で、心と心のつながりは、これまで以上に大切にしなければならないのではと、その思いを強くした方も多かったことと思います。

今年が、変化や多様性を受け入れ、助け合い、そして分かち合える希望に満ちた社会、すなわち「誰も一人にさせないまち」を、皆さんと一緒に作っていただける素晴らしい一年にしたいと、決意を新たにしております。

希望の光は見えてきていると思います。十年後、コロナで失ったことよりも、コロナで得たことの方が多かったと、そんな言葉がここ横須賀で交わされるよう、「希望」と「和合」を旗印に掲げ、この危機に全力で立ち向かっていきます。

結びに、皆さんにとって、令和3年が心躍る輝かしい一年となりますことを心からお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○横須賀市議会議長 板橋 衛

皆様、新年あけましておめでとうございます。

横須賀市議会議長の板橋衛でございます。

昨年来の新型コロナウイルス感染症の感染急拡大にともない、毎年恒例の「横須賀市新年賀詞交歓会」が急遽、中止となったため、今年はビデオメッセージで、市民の皆様には新年のご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、コロナ禍という異例づくしの新年となりましたが、ご家族とともに、令和3年（2021）の新春を、心穏やかにお迎えになられたことと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、市議会に対しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、昨年は何といても、新型コロナウイルスの感染拡大により、私たちの生活は一変しました。3密を避けることが最大の感染予防対策との観点から、市内の各種イベントや行事は軒並み中止、もしくは延期を余儀なくされ、町内会、自治会活動をはじめ、地域経済にも依然として、大きな影響を及ぼしています。

未曾有の国難ともいえるべき今回の事態を踏まえ、私たち横須賀市議会では、昨年の5月に「新型コロナウイルス感染症対策検討協議会」をいち早く立ち上げ、市民の皆様から寄せられた様々な不安や、ご意見、ご要望を、議会全体で共有するとともに、市の業務に支障が生じないよう最大限に配慮しながら、関係部局との意見交換や情報共有を積極的に行ってまいりました。

特に、最も影響が深刻な医療関係者をはじめ、福祉・保育、そして経済団体の皆様から、直接ご意見を伺うなど、現場の切実な声を行政へお届けするとともに、これまで実施した対策についても、そのつど効果検証を行うなど、更なる感染拡大に備え、17項目にわたる提言を上地市長に提出したところであります。今後も、刻一刻と変化する状況に、適時適切に対応するため、感染状況を注視しながら、万全の態勢で取り組んでまいります。

さて、「人類の歴史は感染症との戦いの歴史」とも言われています。感染症を克服するたびに人類は進化を遂げ、新しい文化や価値観を創造し、更には、人々の暮らしや生き方も、新しい生活様式へと変化してきました。コロナ禍で世の中が大きく変わろうとしているこの時に、私たち議会も変っていかねばなりません。時代とともに変化する市民ニーズを的確に把握し、地域の課題を掘り下げ、

その課題解決のために有効な対策を提案する「政策提案型の議会」へと変わることが、今後の「議会のあるべき姿」と考えます。

すでに、横須賀市議会では「議会改革の第2ステージ」と銘打ち、平成28年度から、政策提案型の議会を目指した様々な取り組みを行ってまいりました。特に、議員任期の4年間に、議会全体で取り組むべき政策課題や議会改革について、計画的に進めるための実行計画として、横須賀市議会「未来への羅針盤2023」を、今期初めて策定しました。

政策立案の面では、人生100年時代を見据え、生涯にわたる健康を維持するためには、歯と口腔ケアが有効との観点から「オーラルケア」に着目した「横須賀市歯及び口腔の健康づくり推進条例」を、昨年6月に議会発議で制定。現在は「犯罪被害者やその関係者等に対する支援条例」の策定に向けて、鋭意検討を進めています。今後も、子どもの人権擁護にかかわる問題や、地域の公共交通のあり方など、横須賀ならではの地域課題にスポットを当て、その課題解決のための政策提案を、精力的に行ってまいります。

また、議会改革の面では、市民アンケートを議会として初めて実施し、市民の議会に対する認識を客観的に把握するとともに、議会報告会のあり方や議員定数の見直しについても、多面的に検討しております。

今後もこの実行計画をもとに、政策提案や議会改革を積極的に進めることにより「市民に開かれ、信頼される議会」をめざし、不断の努力を重ねてまいります。

さて、もう1つ、議会改革を進める上で重要な点は、私たちの議会活動をサポートしてくれる議会事務局の機能強化です。そこで、本年4月から議会事務局の組織改編を行い、名称も「事務局」を「議会局」と改め、これまで以上に、サポート体制の充実強化を図り、名実ともに新たなスタートを切ってまいります。本年も皆様のより一層のご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして「希望あふれる、健やかな一年」となりますよう、心からご祈念を申し上げ、私の年頭の挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

○横須賀商工会議所会頭 平松 廣司

横須賀商工会議所会頭の平松でございます。

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新春を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナウイルス感染拡大に翻弄された1年でした。新型コロナウイルスが全国に周知されたのは横浜港に停泊した豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス」号がテレビ等で毎日のように放映されてからでした。当初は、まさか世界中に拡大するとは予想だにしませんでした。夏には常態を維持していましたが秋から冬に入り人々の活動が活発になった時点から予想を上回る早さで感染拡大に至っています。今日の日本は「生命か経済か」の選択を強いられる厳しい状況下で苦悩していると言えます。これからも治療薬かワクチンが安心安全に活用されるまでは、経済を回しながら生命を守る戦いが続くことが予想されます。

横須賀におきましても、コロナに非常に大きな影響を受けた1年でしたが、横須賀商工会議所では、横須賀市と連携し、経済面でのご支援をいち早く取り組んできました。さらに、第3波となる感染急拡大により、年末年始にかけて大きな打撃を受けている飲食業・サービス業を守るために、前払いで購入して感染が収まってから利用する「よこすかプレミアム応援チケット」第二弾の販売を、急遽昨年末に決定いたしました。横須賀市・市議会にも協力をお願いして、1月下旬販売を目指して急いで準備を進めています。市民の皆様の応援をよろしくお願い申し上げます。

今年もしばらくは厳しい状況が続くものと思われませんが、商工会議所では、引き続き横須賀市、横須賀市議会、横須賀市民の皆様と協力し、若者からシニアまで活躍できる横須賀、住んで良かった・働いて良かったと思える横須賀、そして、どんな困難にも負けない横須賀になるよう積極的に取り組んでいきたいと思えます。また、「産農人」プロジェクトをより具現化させる横須賀農業の産業化を進めるなど新しい経済にも挑戦していきたいと考えています。

結びに、この一年が、地域企業の皆様の益々の発展、ならびに市民の皆様にとりまして幸多かりし年となりますよう祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。